



関西学院大学特別講演会

Kwansei Gakuin University Special Lecture

Latvia's Century

ラトビアの100年

ダツェ・トレイヤ=マスイー
Dace Treija-Masī,

駐日ラトビア共和国特命全権大使
Ambassador of the Republic of Latvia to Japan



日時 12月3日(火) 13:30-15:00

13:30-15:00, Tuesday, December 3, 2019

場所 第5別館 3号教室 (西宮上ヶ原キャンパス)

Room 3, Lecture Hall 5, Nishinomiya Uegahara

一般参加歓迎・事前申し込み不要。Free admission. No reservation is required.

講演は英語で行われます(日本語通訳あり)。

The lecture will be given in English with Japanese interpretation.

Dace Treija-Masī 2017年7月より現職。前職はラトビア共和国首相外交政策顧問。1992年、外務省入省。言語：ラトビア語、英語、ロシア語、フランス語。Ambassador Extraordinary and Plenipotentiary of the Republic of Latvia to Japan since July 2017. Before her current appointment, she was a foreign policy advisor to the Prime Minister of the Republic of Latvia. She began working for the Ministry of Foreign Affairs in April 1992. Languages: Latvian, English, Russian, French.



リーガ市庁舎広場Town Hall Square in Riga
「クリスマスツリーをどこでご覧になるうとも、この習慣がはじまったのはリーガであることをお忘れなく」(リーガ市対外交渉局発行の冊子より)

“Wherever you see a Christmas tree, please keep in mind that the first decorated tree was in Riga.” (Riga City Council Foreign Affairs Office Japanese-language brochure)

photo: Leon Balodis
写真提供: 駐日ラトビア共和国大使館



主催: 関西学院大学 Kwansei Gakuin University 0798-54-6100

共催: 経済学部(秋吉史夫教授「国際金融論」)、産業研究所、学院史編纂室、協力: 在大阪ラトビア共和国名誉領事館

● 関西学院とラトビア共和国の関係 ●

1918年から21年まで、原田の森時代の関西学院高等学部(文科・商科、現在の大学に当たる)でイアン・オゾリンという名のラトビア人青年が英文学と英語を教えていました。1918年11月18日、母国ラトビアがロシアから独立すると、やがてオゾリンは関西学院の教師をしながら、神戸でラトビア領事の役割を果たし始めました。16か国語を話す語学の天才と言われたオゾリンは、学生に多大な影響を与えました。

1940年8月以降、旧ソ連に併合されていたラトビアは、1989年の人間の鎖を経て、1991年に再び独立を果たしました。2006年に、初代駐日大使として派遣されたペーテリス・ヴァイヴァルス氏(Pēteris Vaivars, 2006年4月～13年8月)は、『学院史編纂室便り』第26号(2007年12月14日)をお読みになって、日本に対し自国を代表する役割を初めて担ったオゾリンが関西学院の教師だったことに気付かれ、学院史編纂室に連絡して来られました。それ以来、関西学院と大使館のお付き合いが始まり、大使による講演会が実現しました(2008年10月10日“Latvija – Baltijas Pērle Epiropas Savienībā”〔バルト海の真珠ラトビア、EUの一員〕)。2011年には日本・ラトビア国交樹立90年、国交回復20年を記念し、上ヶ原と三田で、再び講演会が開催されました(10月20日“Latvija – Baltijas Pērle”〔バルトの真珠ーラトビア〕、21日“Ninety Years of the Bilateral Relations between Latvia and Japan”)。引き続き、第2代駐日大使に就任されたノルマンス・ペンケ氏(Normans Penke, 2013年8月～17年7月)も、関西学院創立125周年を記念し、ご講演くださいました(2014年10月14日“Latvia’s Success Story: Challenging Odds and History”)。

この度お迎えするトレイヤ＝マスイー大使は、3人目の駐日大使(2017年7月～)で、初の女性大使です。2018年2月9日(上ヶ原)と5月14日(三田)に関西学院を訪問されていますが、ご講演いただくのは初めてです。



グルーベル第15代院長とヴァイヴァルス大使、2008年



ペンケ大使、2014年



Ian Ozolin (Jānis Ozoliņš) はどんな教師だったのでしょうか？

教え子によると、「わずか数名のクラスで、あたかも大演説をするかのように」情熱的な授業を行っていたそうです。性格は「至つて無邪気」で、「ムキになつて学生と喧嘩し、そうかと思ふと一緒に肉もつゝ」き、街に出ると気前よく奢ってくれたそうです。16か国語を話す語学の天才というのも驚きですが、夜遅くまで勉強する大変な頑張り屋だったと伝えられています。また、冬でも海に入り、学生から教わった日本語をどんどん使い、誰彼なしに話しかけていたそうです。学生は面白がってわざとおかしな言葉を教えるので、オゾリン先生の周りには笑いが絶えませんでした。銭湯を利用し、昼も学生食堂でお箸を使って食事していたそうです。